

(2/8早霜)

GOTO トラ
ベル 「リスク高い」

感染を疑わせる症状を経験し 高いと結論付けた。
たとの調査結果を東大などの
研究チームによると、G.O.
T.O.事業と感染リスクの関係
否定的な立場で、感染拡大の
主要因とする「証拠はない」

政府の観光支援事業「G.O.
T.O. ベル」の利用者
の方が、利用しなかった人よ
りも多く新型コロナウイルス
り、利用者はど感染リスクが
断とは異なるが、嗅覚・味覚
の異常などを訴えた人の割合
は統計学上、一倍もの差があ
り込んだ追加経済対策を閣議
決定するが、継続の是非が改
めで問われそうだ。

国内初 東大など調査

との専門家見解を繰り返してい。調査は十五~七十九歳の男女約二万八千人を対象に八月末から九月末にインターネット上で実施した。過去一ヶ月以内に嗅覚・味覚の異常を訴えた人の割合は利用者で2.6%なのに対し、利用しなかつた人は1.7%だった。年齢や健康状態の影響を取り除く統計処理を施すと、有症率の差は約二倍に上った。発熱やせき、頭痛を含めた計五項目全てで利用者の方が有症率が高かった。

年齢別では六十五歳以上の高齢者よりも、六十五歳未満の方々が感染を疑わせる症状を経験している割合が高かった。一方、基礎疾患の有無についても、相関が確認できなかつたとし、東京都が実施して研究チームの宮脇敦士東大大学院助教（医療政策）は、英國などでは大規模な調査研究が既にあると指摘。「エピソード（根拠）に基づく政策立案が重要で、透明性の高い判断を下すことが必要だ」と調査の意義を強調した。